

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針と基本理念を職員が必ず通る場所の壁面に掲示し、職員との共有を図っている。	玄関に基本方針と理念が掲示されており、月1回の勉強会で共有を図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に対して苑の行事である敬老会や夏祭り等へ呼びかけ参加して頂いている。また、年数回ある地域の溝掃除や川掃除にも参加している。	地域の方が参加される母体施設での夏祭りや敬老会に参加したり、地域のボランティアの方が行う、書道や絵画、音楽リハビリ等のクラブ活動を通して地域交流が図られています。近隣の小中学校とも行事を通して相互に行き来があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において「認知症の人」の理解を高めるために勉強会を行っている。また、キャラバンメイトとしてサポーター養成講座に参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議以降の行事・レクの結果とその後の予定、またヒヤリハット及び事故報告を行うと共に意見を求めている。	行政職員、家族、自治会長等の参加があり、近況報告や事故報告、ヒヤリハットの状況をわかりやすく報告されています。また要望等についても聞く機会を設け、サービス向上について話し合いが行われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域密着型サービスの地域ケア会議に参加し、また運営推進会議へは毎回出席をして頂き理解を得ている。	行政職員が、運営推進会議に毎回出席していたり、協力的な関係づくりがされています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」に向け、結果的に拘束となり得る事例を排除すべく検討を重ねている。	玄関を含めて日中は施錠せずに利用者の状態を把握し、対応しています。又、定期的に研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待の防止」（通報・届出・相談）を各ユニットの目立つ所に掲げ、意識の高揚を図っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市からの指導通り、各ユニットの委員を置き外部の研修に参加し知識を共有すべく、その内容を全スタッフに周知している。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込みの時点でグループホームでできること、出来ないことを含め明確に説明し、理解・納得を頂いた上で契約して頂くようにしている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議及び家族会において、忌憚ない意見を求めている。</p>	<p>運営推進会議へご家族が参加しやすい曜日を設定したり、家族会を開催するなど意見を言える機軸づくりがされていますが、意見がなかなか出ないことが課題と感じられています。</p>	<p>ご家族の意見をくみ取る手段として、定期発行の新聞やお小遣いの利用状況等に添えて、お手紙や簡単なアンケートを実施してみたいかがでしょうか。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>苑長の指導により危機管理意識を持って、各部署の問題点等を含む提案の推進を図っている。</p>	<p>月1回の職員会議や業務検討会議、ケース会議等で意見や提案を聞く機会を設け、現場での活動に反映されています。そこで出た提案として、玄関に職員紹介の掲示をし、職員と利用者、家族との関係構築に努めています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>上記の提案の推進、また職務資格取得を勧め、それにかかる費用の負担を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「和歌山県認知症支援協会」や「県長寿社会」「和歌山医大」等が推奨する研修に積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域ケア会議において、地域密着型サービス事業所間で情報を持ち寄り、事例検討を含め意見交換を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居される日より以前に、ご家族にお願いし、「生活史アンケート」を提出して頂き、事前の情報を得ることでスムーズな苑での生活がスタートできるように心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>空室ができたからと言ってすぐに入居を案内するのではなく、ご家族の意見、思いを聞く機会を設け、入居時に活かせるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>上記の事前調査を行う事により、入居日当日に必要と思われる個別のサービス利用ができるように心がけている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>「正面」でも「後ろ」でもなく、いつだって必要な時には「隣」にいるという距離で接するように努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>それぞれに違う本人と家族との距離を理解したうえで、必要な時には家族のエンパワメントを借り一緒に支えていくスタンスを心がけている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>親しい人が併設のデイサービスを利用される日には、デイルームにお連れし話される機会をつくっている。</p>	<p>気持ちの良い、春秋に故郷にお連れする「故郷訪問」を計画したり、家族や友人等馴染みの方の訪問の受け入れをするなど馴染みの人や場との関係継続の支援がされています。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>デイルームでの行事やレク、畑での野菜作りなど出来るだけ多く参加して頂き、色々な方との交流を図っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>隣接する特養に留まらず、病院や他施設また家族宅等、近隣に移動された場合には、時々、様子伺いの連絡をさせて頂いたりしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に提出して頂く「生活史アンケート」であまり情報が得られなかった場合には入居後、出来るだけ早い時点で個別のニーズを得るように全スタッフで意識行動に努めている。	入居時に生活史アンケートを提出して頂き、その人らしさが反映できるように個別シートを活用しています。入居後も利用者1人1人との関わりを大切に、その人らしく生活を送れるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕2回のバイタルチェック時、食事の時間、定期訪室時等での様子観察を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を観察しながら、ニーズが変化した時には、必ず報告し、家族に相談しながらカンファレンスで検討している。	利用者の様子を日々観察しながら、家族には面会時に報告、相談を行い、職員からも申し送りノートで状態の把握に努め、定期的に計画の見直しを実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的に「D-3シート」を中心に個別の記録を記入し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な受診に加え、週2回の往診、必要が生じた場合の他科への受診、また一般浴への入浴が困難な場合の特養の特浴使用等柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館で行われる文化祭や地域の小学校で行われる地域の方の芸能発表会に呼んで頂き見学させて頂いている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には主治医や協力医を受診して頂くが、希望や必要に応じて専門医の紹介を受け受診して頂いている。	基本的には主治医や協力医の往診があります。ただ、本人や家族の希望があればかかりつけ医への通院が可能です。通院介助も状況に応じて行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	特養の看護師と「医療連携体制加算」の契約を結び、決まった日以外にも相談し、日々必要な処置対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関との連携を図っている。 内科・整形外科・歯科		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りグループホームで生活して頂くように支援しているが、必要に応じて隣接する特養、また老健への転居入所の相談をさせて頂いている。	終末期の対応が現在不可で、利用者の状態の変化に応じて医師や家族と相談をし、病院や特養とも連携をとりながら支援に取り組んでいます。ただ、今後のターミナルケア実施に向けては運営推進会議等で検討がされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」を配備、指導し研修等で新しい情報を得るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年に2回の避難訓練を実施し、救命技術向上を図っている。	消防署が立会いのもと、法人全体で年2回避難訓練を実施しています。食料や飲料水等の備蓄もされています。福祉避難所としての役割として今後は地域との協力体制構築を検討されています。	消防訓練時に自治会や近隣住民に参加を要請するなど、非常災害時に備え、地域住民との協力体制構築に期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に基づき、入居者の尊厳を大切にしている。	プライバシー保護や人権について、勉強会を事業所内で開催するなど職員に意識付けを行い、利用者の気持ちを大切に支援が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リスクを考えながら、出来るだけ御本人とご家族の思いや希望に沿うように努めている。		
38	15	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の支援については個別のリズムとペースを優先した支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が意見を伝えられない場合には、職員がリードしながら決めて、良いかどうか確認をとりながら、進めるようにしている。		
40	16	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	立位が安定されている方には、準備や後片付けを、立位が不安定な方にはテーブルで座位で無理がない範囲で協力をお願いしている。	食事の配下膳、調理など利用者ができることは職員と一緒にしています。時折、外食や中庭での食事など楽しい企画もあります。	食事を楽しむ雰囲気づくりをする為、職員も利用者と一緒に食事をしてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事の量だけでなく食形態についても個別に状態の把握に努めたうえで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の残された力を優先しつつ、出来ないところを支援させて頂くようにしている。		

43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の尿意・便意を声かけで確認しながら定期的にさりげなく促すように努めている。</p>	<p>できる限りトイレで排泄できるように、利用者個々の排泄パターンを排泄チェック表をつけ把握し、利用者個々に合わせたリズムで排泄支援がされています。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>基本的に食物の工夫、必要適量な水分補給、適度な運動を促すことで軽減、改善を図っている。</p>	/	/
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時前のバイタルチェックに異常がなければ、可能な限り本人の希望通りの入浴支援を心がけている。また、体力且つ心疾患等に問題のある方にも最低週に1回の入浴を支援している。</p>	<p>利用者の状態に合わせて、入浴日が決められています。利用者の体調や希望に応じ、変更も可能で、ゆっくりと一人一人の気持ちに合わせて入浴を支援しています。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>特に物事に執着の強い方には訪室のうえ休息を促したり、逆に不眠症の方には日中レクに参加して頂き、夜間入眠しやすくなるように支援している。</p>	/	/
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の手配は安全を期し全て職員が管理している。症状が軽減且つ改善した場合には、薬を減らすべく主治医に報告相談を持ちかけている。</p>	/	/
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前の「生活史アンケート」を基本に「その人」個人の趣味嗜好を含めた理解に努め支援する事を心がけている。</p>	/	/

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>基本的にデイルームや特養、また新しいユニットへ自由に出かけて頂くようにしている。また、家族との外出を歓迎している。思い出の場所に「ふるさと訪問」として同行計画している。</p>	<p>日常的な外出はあまりないが、利用者の希望により散歩や買い物等に出かけています。また、外食や季節ごとの初詣、花見など行事を計画し外出支援がされています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>異食他、自己管理が困難な方には事務所管理としているが、可能な方にはご家族に確認しながら本人で管理されるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかける支援、お金を投入する支援、相手の言葉を中継する支援等、困難な部分を支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木を基調にした建物、決して広すぎない空間で、中庭には花を植え、春と秋には野菜作りに畑に出かける等、季節感、生活感を提供している。</p>	<p>木を基調にした建物は温かみがあり、窓からは陽の光が差し込み、とても明るく落ち着いた雰囲気になっています。中庭には草花や野菜が植えられ、季節感や生活感を味わえる雰囲気づくりがされています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室で読書、ダイニングで談笑、デイルームで旧知の人と会い、特養に友達を訪ねるといったその人に合った生活をして頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>基本的に本人の動線上に問題がない限り、使い慣れた物を持ち込んで頂き以前の生活と大きな環境の変化がないように努めている。</p>	<p>利用者が安らげるなじみの家具や趣味のもの、写真などが持ち込まれ、温かい雰囲気づくりに努めています。また、本人の状態に合わせ、動線を確保する家具の配置にも配慮されています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>特に居室での転倒に対し、動線上の安全の確保と、ベッドからの立ち上がりが少し厳しい方には滑り止めマット等で対応し環境整備に努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない